



安らく場所って、室内の人もいると思うんですよ。自然がいいとか、外遊びがいいとか、人それぞれ違うけれど、親の選択肢の中に私たちの活動があり続けたいと思っています。実際、私たちはこの鳥取の自然の中で子育てをして、すごく良かったなって思っているのよ。

左から幸田ふみさん、牧田育子さん、三村稚賀さん。

のんびりゆったり、自然の力を借りて

あおぞら自主保育の会 木とねっこ

鳥取県中部で、豊かな自然を活かした育ちの場づくりを行う子育てサークル「あおぞら自主保育の会 木とねっこ」。活動について、メンバーの三村稚賀さんにお話を伺いました。

自然の力を借りて子育てをしたい！

活動を始めたきっかけは、自身の子育てのためだったという三村さん。学生時代に当時、八頭町にあった牧場*⁽¹⁾でポニーと子どもたちに関わるボランティアを6年間経験したことから、自分で子どもをみたいという思いがありました。「自然を活かした子育てをしたかったし、鳥取の豊かな自然を活かさないとどうするの?! っていう気持ちもありました。2011年の東日本大震災にも影響を受けましたね。何でも人任せにするのではなく、できることは自分でしたいと思って」と話す三村さん。

当時、空山で赤ちゃんとお母さんの居場所づくりをされていた方との縁で、東部の「森のようちえん」に自分の子どもを通わせていた牧田育子さんと、保育士の資格を持つ幸田ふみさんに出会い、意気投合。平成26年、牧田さんと幸田さんと共にあおぞら自主保育の会「木とねっこ」（以下、「木とねっこ」という）を立ち上げました。

*⁽¹⁾平成16年から鳥取市越路の「空山ポニー牧場」に移る。

そのころ、東部では「森のようちえん」の活動が盛んでしたが、中部にはまだなく、3人の生活の基盤が中部であったこともあり、中部で活動を展開することに。「自然の力を借りながら自分たちで子育てができることを東部の森のようちえんが示してくれて。その理念を理解することで、私たちにもできるかもって思えたんですよ」と、当時を振り返ります。

いろいろな命のある場所で、命を感じながら、鳥取の自然を活かして伸びやかに子育てをしてもらいたいと活動を続ける「木とねっこ」。週に1回の会員制保育「ようちえん組」とだれでも参加できる「プレーパーク」*⁽²⁾に取り組みます。

 *⁽²⁾ プレーパークって? 
子どもたちの自由な発想で、自然の素材や遊び場にある道具を使って、子どもたちの「やってみたい」を大切に、そしてカタチにできる遊び場の水遊び、泥んこ遊び、たき火や工作、思い思いの遊びがいっぱい。

ようちえん組〈体験・見学随時募集〉

※会員制の保育で、週に1回開催

対象 0歳～2歳以下は親子で参加、3歳以上は慣れてくるとお互いの子どもを見合う自主保育

活動日 火曜日 10:00～14:00

内容 自然の中でおさんぽ、畑仕事、季節の手仕事など

プレーパーク

※どなたでも参加可能。開催日はFacebook等でお知らせ

対象 0歳～何歳でも

開催日 季節に1回程度（年に4～5回）

内容 場所や季節に応じて生まれる遊びはさまざま

子ども親も、伸び伸びリラックス

「木とねっこ」は、お互いの子どもを見合う自主保育。自分の子だと、親は責任感でいっぱいになりますが、どの子に対してもおおらかに見守ることができるようです。

「子どもたちを自由気ままにさせるのとも違って。子どもたちが自分で考えて主体的に動くことで、成長していくことができる場にしたい」と話す三村さん。例えば、部屋の中だと、子ども同士がおもちゃを取り合いになった時、親は譲り合う方向に誘導してしまいがち。自然の中では、子どもたちが本当はどうしたいのかを親は見守りたいと願います。

「普段は幼稚園や保育園で過ごす子どもも多いため、この活動がどれだけ子どもたちに影響を与えているかは不明。でも、親は確実に生き生きとしてリラックスもして、家庭で子どもたちにいい影響を与えていることは確か」と続けます。

プレーパークの取組を取材した時に、子どもたちがみんなで描いた絵



プレーパークで「たき火」は必須

「木とねっこ」のプレーパークには、「たき火」があります。たき火があれば、そこはもう非日常的な空間、特別な場所へと変わります。たき火で野焼きパンやカレーを作ったり。子どもたちにもたき火は大人気。遊びの中で、葉っぱや松ぼっくりなどをどんどん集めてきて燃やします。親子でたき火を体験することで、火を使うという昔からの人の営みを大事にしています。

「つながり」が活動の輪を広げる

これまで、湯梨浜町でプレーパークを実践する方から竹のジャングルジムを建てる方法を教わったり、ボランティアでシャボン玉を飛ばしたりバルーンアートをする方から「木とねっこ」の活動に協力を申し出てもらったことも。

また、「ようちえん組」を卒園した子どもたちが、友だちと遊びに来てくれることも。さらには、子どもが大きくなってからもプレーパークを手伝いに来てくれるお母さんもいます。「私たちが頑張りすぎなくても、こういうふう遊ぶ場だということをよくわかってくださっていて。カブトムシの幼虫がたくさん生まれたからと持ってきて縁日みたいに配ったり、たき火の番をしたり。楽しみながら手伝ってくださりとてもありがたいです」と笑顔で話す三村さん。地域の人とつながることでさまざまな協力が得られ、活動の輪が広がっています。

★おすすめの遊び

- ・ **たき火** 火を見つめるだけで心が落ち着きます。
- ・ **植物で遊ぶ** 野の花の花束づくり、木の実のままごとなど、遊びは無限に広がります。
- ・ **虫探し** いろいろな虫がいることにびっくり！

★中部おすすめスポット（外遊び・自然編）

あやめ池公園／北栄町オートキャンプ場／大平山公園

★大切にしていること

- その1** 時間を忘れて思いっきり遊ぶ「子ども時間」
- その2** 子どもの思いや行動を尊重しながら「見守る」
- その3** 子どもも大人も共に育つ

「学びたい」という意欲もでてきて

活動を始めて6年が経過。自分たちの子どもが大きくなって「木とねっこ」を利用しなくても活動を継続中です。活動を続けるうちに、「学びたい」という意欲もでてきて、牧田さんと三村さんは保育士の資格を取得しました。「子どもと自然と親と、こういう場を創ることは、まだまだ奥が深くなって。活動をやればやるほど感じています」と三村さん。

今後は、今の活動を続けながら、その先には、日常的にも自然の中で親と子がのんびりできる自由な場を作ることができればと考えます。そのために何ができるのか、学びながら模索し続けます。



暖かく、食べものを作ることもできる「たき火」。取材当日は、おやつにサツマイモと栗が焼かれ、子どもたちが笑顔でほおぼる姿が見られました。

外遊びのフリーペーパーを紹介します！



子どもとおとなが
外に遊びに行きたくなる！
フリーペーパー

#ソトイク



内容は
コチラ

- 発行者** 山陰両県を子ども達の豊かな自然体験の場にする会
- 問合せ先** とっとり森のようちえん会議
080-6848-4188

連絡先

あおぞら自主保育の会
木とねっこ

【代表】 牧田育子さん 090-4146-2131
電子メール：kitonekko@gmail.com
Facebook：https://www.facebook.com/kitonekko

